

ご挨拶

飲食店の営業時間の短縮も数カ月ぶりに解除され、札幌市内にも少しずつ賑わいが戻ってまいりました、しかし第6波はいつ襲ってくるのか分かりません。それに備えて道は医療関連をはじめとした体制整備をしているところです。観光部局では、「新しい旅のスタイル」等、北海道観光の復興を目指して再スタートを切りましたが、インバウンドが解禁になるまではコロナ以前の良好な状態に戻ることは望めません。赤潮による漁業被害、記録的な暑さによる農業被害等、第1次産業の課題も山積みです。

『試される大地 北海道』。これは1998年に発表された道のキャッチフレーズです。私は今こそ、これを合言葉として、疲弊した北海道経済の復興に向けて取り組んでいくべきと考えます。私もその一助となるよう研鑽、努力を重ねる所存であります。今後とも、皆様には変わらぬご指導ご鞭撻を頂こうお願い申し上げます。

渡邊 靖司

小児がん・AYA世代がん対策について 真部淳・北海道大学教授ら専門家と意見交換



小児とAYA世代(思春期・若年成人)のがん対策・患者支援などについて、同僚の檜垣尚子道議(中央区)とともに、第一人者である北海道大学の真部淳教授、武田充人講師と意見交換しました。
(左から武田講師、真部教授、檜垣道議)

わたなべ靖司のプロフィール

●昭和31年3月5日生まれ、A型 ●札幌市立北園小学校、明園中学校、札幌光星高校卒業、東海大学(中退) ●株式会社丸信ワタナベ代表取締役

【北海道議会】
議会運営委員、総務常任委員会理事、北方領土対策特別委員会理事
【自民党道連】
総務会常任総務、政務調査会委員、選挙対策副委員長

【資格】
宅地建物取引士、大型2種自動車免許

【公職歴】
●札幌青年会議所 副理事長 ●日本青年会議所 北海道地区協議会 運営専務 ●北海道私立幼稚園PTA連合会 会長 ●北園小学校PTA会長 ●東区PTA連合会 副会長 ●北海道神宮第28北栄祭典区 代表委員長 ●札幌市東消防団 北栄分団 分団長

【現職】
●東区北栄連合町内会 顧問 ●北栄東町内会 副会長 ●札幌村郷土記念館保存会 相談役 ●札幌市東区少年軟式野球連盟 顧問 ●日本犬ぞり連盟 特別顧問

わたなべ靖司政務調査室

〒065-0024 札幌市東区北24条東9丁目1-31 しみきまビル1階
TEL.011-750-1717 FAX.011-722-6677

<https://watanabe-yasuji.jp/>

北海道議会議員
(札幌市東区)

わたなべ
靖司



道政だより vol.5

発行日/2021年12月1日

令和3年 第2回北海道議会定例会

地域の重要課題への 取り組み加速を強く要請

本年の第2回定例会の本会議で「一般質問に立ち、地域の重要課題である丘珠空港の利活用や未来を担う子供の安全安心の確保、地球温暖化対策と北海道の林業・木材産業振興にとつて待たなしの森林整備の推進などについて、道の取り組みの加速を鈴木直道知事に強く求めました。

一般質問(要約版)

●丘珠空港の利活用について

わたなべ 丘珠空港の滑走路を延伸することで、乗客1000人前後のリージョナルジェット機の就航が現実味を帯び、道内観光の可能性が広がる。また、高度専門的医療が必要な患者を搬送するメディカルウィングを周年駐機させることも可能になる。アフターコロナにおいて、丘珠空港は道内航空ネットワークの拠点としての役割を担うものと考えられるが、そのためには滑走路の延伸が不可欠。知事は丘珠空港の果たす役割をどう認識しているのか。

知事 道は「北海道航空ネットワークビジョン」において、丘珠空港が観光やビジネスの拠点空港となり、道内医療、防災機能など幅広い分野で役割を果たしていくとしている。そのために、滑走路延伸による空港機能の強化は重要。道として、今後札幌市が取りまとめる予定の「丘珠空港の将来像」を踏まえ、札幌市と連携を図りながら一層の利活用と機能強化に向けて必要な取り組みを着実に進める。

●地域における子供の 安全安心の確保について

わたなべ コロナ禍が長引く状況において、親子の軋轢が生じやすくなる一方、家庭の様子が確認しづらい状況と言われている。児童相談所の体制や機能の強化はもちろんだが、市町村をはじめ保育園や幼稚園、学校、警察、民間の児童家庭支援センターなど関係機関による見守り機能強化と連携が二層重要になる。また、虐

待の予防から発生への対応、自立支援まで切れ目のない支援体制の構築も必要と考える。

知事 子供の虐待防止等については、道として市町村に対し児童相談所による技術的、専門的な助言や支援を行っている。コロナの長期化で虐待の兆候に気づきにくくなるのが懸念され、改めて市町村に対象児童の状況把握を助言するとともに、相談窓口となる「子育て世代包括支援センター」の利用や、支援を要する児童を児童相談所につなぐ「子ども家庭総合支援拠点」の整備を促すなど、これまでに以上に連携を密にし、地域の見守り体制の強化を図っていく。

●森林への推進について

わたなべ 北海道の豊かな森林は、木材の供給、国土の保全、野生生物の生息の場などさまざまな機能を発揮しており、近年はCO₂の吸収により地球温暖化を防止する役割への注目が高まっている。道は本年3月に見直した「地球温暖化対策推進計画」で2030年度の温室効果ガス排出量を2013年度比で実質35%削減する中期目標を立て、国も2030年に向けた温室効果ガス削減目標を2013年度比46%削減と表明している。ゼロカーボン北海道の実現に向けて、適切な間伐や伐採後の着実な植林などの森林整備を二層進めることが必要。どのように取り組む考えなのか。

知事 本道は全国一豊かな森林資源に恵まれているが、年齢が高い樹木が多く、今後CO₂吸収量は減少傾向で推移する見込み。道としては、間伐や植林を計画的・効率的に実施し、吸収能力の高い活力ある森林整備が必要と認識している。「豊かな森づくり推進事業」を活用して植林の促進、スマート林業の全道展開などに取り組む一方、成長が早いクリンラーチの増産を進め、企業の協力による森林づくりやカーボン・オフセットなど多様な手法を活用してゼロカーボン北海道の実現に貢献する森林整備を着実に進める。

●水産物の輸出について 建設業の振興について

(その他の質問)



「ゼロカーボン北海道」実現のカギ握る森林づくり

CO₂の森林吸収量の促進へ！ 好循環の確立を

道が「2050年までに温室効果ガス排出量の実質ゼロを目指す」として取り組みを進める「ゼロカーボン北海道」。気候変動対策にとどまらず、アフターコロナを見据えたわが国の未来に向け、成長の機会としても重視されています。

「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた主要な取り組みの一つが「森林整備」です。成長が早くCO₂吸収能力が高いクリーンラーチ(カラマツの仲間)苗木の増産・植林の推進による活力ある森林づくりでCO₂吸収量を確保すると同時に、道産木材の需要拡大で道内の林業・木材産業の活性化につながります。

私、わたなべ靖司は道議会での議論などあらゆる機会を通じ、北海道の豊かで活力ある森林づくりに力を尽くしてまいります。



令和3年 予算特別委員会

●今後の森林づくりの取り組みについて

わたなべ 「ゼロカーボン」の実現に向けて、豊富な森林を有する北海道が全国をけん引する必要がある。2030年、その後の2050年を見据え、どのような森林づくりを進めていくのか。

水産林務部長 道では全国に先駆けて森林づくり条例を制定し、豊かな森林を次世代に引き継いでいけるよう、多様な機能を効果的に発揮する森林づくりを進めている。道としては、森林吸収量の維持・確保に向けて、年度内をめぐりに森林吸収源対策推進計画を見直し、計画的な伐採や植林を一層進め、成長力が高い森林の整備に取り組み、建築物や家具など幅広い分野で道産木材の利用を一層促進するなど、カーボンニュートラルの実現をリードする本道の森林づくりを着実に進める。

●道産木材の安定供給について

わたなべ 今年に入り、海外需要の回復で木材価格が高騰して輸入量が激減するいわゆる「ウッドショック」が続き、建築材の不足感が増したことで、道産建築材に注目が集まっている。道産建築材の利用拡大を図るには、ウツ

ドショック収束後も道内の工務店などに長期的に安定して利用を促すことが必要。今後、道産建築材を適正な価格で安定的に供給する体制整備が求められ、道が率先して取り組みを進める必要がある。

林務局長 道産建築材の供給力強化が図られるよう、道では建築材を生産する工場や林業事業者と協定を締結し、道有林の木材の計画的な販売を進め、北海道森林管理局と連携して原木の安定供給に努める。マッチング促進のため情報共有の場を設定して供給ロットの拡大を図り、木材加工企業間の新たな協力体制の構築に向けた支援を行うなど、幅広い関係者の連携のもと、道産木材を安定的に供給する体制の強化に取り組む。

●胆振東部地震からの森林再生について

わたなべ 胆振東部地震から3年が過ぎたが、被災森林の再生こそが真の復興を意味すると考える。道が策定を目指す森林再生に向けた実施計画は重要な第一歩であり、作業の加速化と効率化を図る上できわめて重要。地域が強く要望する林業・木材産業の復興を実現するため、道としてどのように取り組むのか。

水産林務部長 道として、今年度中に地域の意向を最大限反映した実施計画を策定する。地域の関係者と一丸となって森林再生を加速させる、より効果的な対策を検討し、国に地域の負担軽減を図る制度の拡充を要望するなど、地域の林業・木材産業の復興につなげていく。

わたなべ 一刻も早い復旧を遂げ、住民の方々が元の生活に戻れるためにご尽力いただくよう指摘する。



視察・研修会など

道産木材を活用したホテルが 大通地区に登場！

道の「HOKKAIDO WOOD BUILDING」登録第1号

店舗や事務所などの建築物の木造・木質化を推進し、道産木材のブランド力をさらに強化するため、道が今秋から始めた「HOKKAIDO WOOD BUILDING」登録制度。その第1号として、道産木材を積極的に活用した国内初の高層ハイブリッド木造ホテル「ザ ロイヤルパーク キャンパス札幌大通公園」(札幌市中央区)を登録。10月1日、鈴木直道知事から木製の登録証が交付され、同月には同僚議員と現状視察に伺いました。道産木材の魅力の発信と利用拡大に期待が高まります。



石狩地区農作物作状調査を実施

今年の記録的な暑さによる干ばつ被害の調査を実施。札幌や石狩、道央地域の作柄状況や干ばつ被害状況を視察。



子宮頸がんワクチン研修会に出席

北海道医師会の三戸常任理事らによる講演を聴き強い危機感を持ちました。1人でも多くの命を救うために、ワクチンの定期接種を再開できるようしっかり後押ししていきます。

